

介護施設の国家基準

中国国家標準化管理委員会は2月18日に記者会見を開き、「養老機構（介護施設）の等級区分と評価」などの国家基準を発表しました。介護施設を等級で評価するもので、今年7月1日より全国で順次実施されることとなります。

これを受けて上海市民生局養老サービス監督管理署長は介護施設に対し、「評価申請をする前に、基本条件である40項目をきちんと自社がクリアできているかを確認するように」と伝えていきます。

この基本条件とは「施設の設備」「環境」「運営管理」「サービス」の4つから構成され、これらの一定条件をクリアして初めて等級区分にかかる統一評価を受ける事が出来ます。

統一評価内容は更に細分化されており、全102項目あります。得点は施設設備130点、環境120点、運営管理150点、サービス600点の計1,000点満点で、等級は5段階に区分されます。

評価項目の例として、環境面では、利便性やバリアフリー対応、室内温度などの基準が設けられており、サービス面では入退院時のサービスや看取りへの対応などがあります。

これらの評価制度は、あくまで国の方針により任意で実施されるものであるため、強制力はありません。しかし、このような国家基準が定められたことで、共通基準による評価が明確になれば、介護施設への入居を希望している高齢者やその家族にとって、施設選びのための情報となります。

また、施設側はいつも他社間との競争力が高まり、差別化された良い施設が増えていくのではないかと業界関係者は期待しています。

これまで上海市では独自の評価制度があり、最高級の「5つ星」を掲げる運営事業者は数多く存在していましたが、その評価基準は曖昧でした。しかし今回、全国統一の評価基準ができたことにより、信頼性やサービスの質が高い施設が増えていくと予想されます。

5段階で評価 7月より実施

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田 義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。